

読者アンケートから

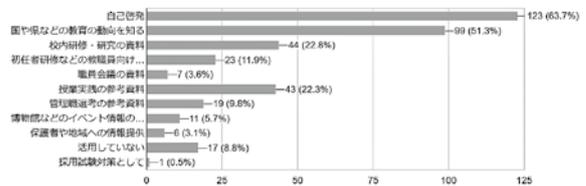
県総合教育センター総務課

千葉教育では、読者の皆様からアンケートをとっている。(裏表紙のQRコードから答えることができる。)今年も多くの皆様からご意見を、お寄せいただいた。今回は、その中の一部を紹介させていただく。

様々な校種の様々な教科領域の授業実践等について紹介いただいている。

2 「千葉教育」の活用方法について

「千葉教育」の活用方法を教えてください。(複数回答可) (必須)
193件の回答



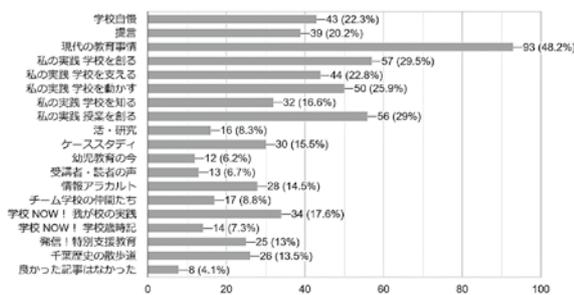
上のグラフは、「千葉教育」の活用方法についてまとめたものである。

「自己啓発」が6割以上、「国や県などの教育の動向を知る」が5割と、この2項目が抜き出ている。

また、「校内研修・研究の資料」、「授業実践の参考資料」が約2割と一定の割合の活用がされている。

1 良かった記事について

今年度読んだ中で良かった記事は何ですか。(複数回答可) (必須)
193件の回答



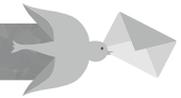
上のグラフは、今年度良かった記事について、まとめたものである。

「現代の教育事情」が最も多く、5割近くの方から好評を得ている。「現代の教育事情」は、その号の特集テーマに合わせ、県教育庁や知事部局の関係課、実践校、大学教授等に執筆いただくコーナーである。年間6回の特集テーマについても、アンケート調査の結果を踏まえ、最新の教育事情や喫緊の課題を考慮しながら、編集会議を重ね、決定しているところである。

次に多かったものは、私の実践の「学校を創る」と「授業を創る」で、どちらも約3割の方から好評を得ている。「学校を創る」は、校長としての理念や学校経営の実践について執筆いただいている。また、「授業を創る」は、

3 良かった記事の自由記述欄から(抜粋)

- 「現代の教育事情」のページも今の教育課題や学校に期待される役割、関係機関との連携などが記載されていて、改めて勉強になった。
- 国や県の最新の施策を知ることができる点や、先進的・実践的な取組を知ることができる点が良い。
- 最新の教育情報、また、専門的な立場の方の考えや意見を知ることができる。
- いろいろな先生方の実践や思いを知ることができ、教育実践を行う際の新しい発



見や工夫につながった。県の教育施策のポイントなども分かりやすくまとめられており自己研鑽に役立てている。

- 困難を抱えている子供たちへのアプローチの手立て等現状の課題をふまえて、今自分が知識として深めたい内容だった。
- 「私の実践」は、学校職員が直面している課題に向けて実際に行っている取組を知ることができるので、とても参考になる。また、「発信！特別支援教育」も日々の実践を知ることができ、とても勉強になる。
- ICT活用の事例を知ることができた。
- 学校経営に、他校の校長の実践が参考になった。
- 教頭2年目となり、他校の実践に関心が高まってきている。千葉教育は貴重な情報源である。
- 他の地域の学校現状を知ることができ、良かった。
- 他校種の取組を知る機会が少ないので、とても勉強になった。特に特別支援学校や幼稚園については、とても良かった。
- 身近に感じる。読みながら自分はどうか自問自答できる。また、やってみよう、行ってみようと思える。
- コロナ禍で様々な研修が中止、またはオンライン開催となり、他校との情報交換の機会が少なくなってしまったため、このような冊子で他校や他校種の取組を知ることができるのは、とても有意義なことだと思っている。
- 高等学校の魅力について詳しい情報が得られた。
- 「提言」で様々な職種の方の記事がある。
- 記事を読んで、養護教諭の気持ちが分かった。

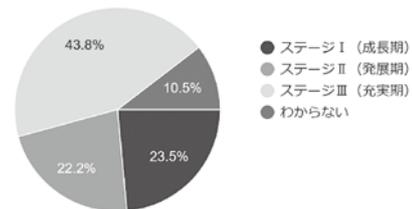
これらのことから「千葉教育」は特に、「新しい教育情報を得るため」、「他校や他校種の実践や研究を知るため」の教育情報誌として、期待が大きいことが分かる。

今後も、国・県の動向や教育現場の課題に注視し、読者のニーズにあった特集テーマをたてていくと共に、多面的にテーマに迫れるよう、執筆者の選定をしていく所存である。

4 読者層の傾向

下のグラフは、読者アンケートに回答くださったキャリアステージ別の人数の割合である。

あなたのキャリアステージ（千葉県・千葉市教員等育成指標による）を教えてください。（必須）
153件の回答



必ずしも、回答者＝読者とはならないが、傾向としては捉えられると考える。

このグラフから、ステージⅢ（充実期）の読者の割合が高いものの、ステージⅠ（成長期）、ステージⅡ（発展期）共、2割強を占めており、全ての層の方に読まれていることが分かる。今後も、様々な層に向けた内容の記事をバランス良く配置していく。

5 おわりに

読者アンケートでいただいた意見をもとに、一層紙面を充実させていきたいと考えている。

一人でも多くの方に手に取ってもらえるよう職場でも声をかけていただき、話題にしていいただければ幸いです。